

第6期第2回横浜市子ども・子育て会議 放課後部会 会議録

日 時	令和5年9月22日（金） 18時30分～19時20分
開催場所	横浜市庁舎 18階 みなと5会議室
出席者	青山鉄兵副部会長、明石要一部会長、池田浩久委員、江口和良委員、鈴木裕子委員、高杉陽子委員、辺見伸一委員、宮永千恵子委員、三浦尚美委員
欠席者	松本豊委員
開催形態	公開（傍聴者3人）
議 題	(1) 第2期子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について

(1) 第2期子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について

(事務局) 資料5～7に基づき説明

(青山委員) 計画策定時とかなり状況が変わる中で、この状況の違いを踏まえた上での評価としては、おおむね妥当ではないかという印象を持ちました。

(辺見委員) これだけの実績を上げていただけたのは、運営している方々のお力なのかなと思いました。

余談ではありますが、4年生以上のキッズクラブの利用者が少ない理由の一つとして、高学年用の遊びがないということを保護者から聞きました。

(明石委員) 今の話題は非常に大事な御指摘で、放課後部会の懸案の事項です。要するに5年生、6年生になってくると参加者が減ってくる。高学年の彼らがどうやって、低学年で楽しんだことを、自分も楽しんで、少し後輩の面倒を見てあげるといいう仕組みづくりをどうするかというのは今後の大きな課題かと思います。

(池田委員) 令和5年4月の状況について、まだわからないということによろしかったですでしょうか。また、目標値の10万人の算出方法についてもう一度ご説明をお願いします。

(事務局) 10万人の計算の方法ですが、人口推計で6歳から11歳までの推計の人口をまず出します。そこに別の調査の中で放課後に過ごさせたい場所という項目で放課後キッズクラブ、放課後児童クラブを選んだお子さんの割合を求めます。それを推計人口と掛け合わせて、利用をするであろう想定のお子さんの数を出して、その合計というような形になっております。

人数につきましては、令和5年4月はキッズクラブが登録児童数が6万3281人、放課後児童クラブ学童のほうが8498人となっております。

(明石部会長) それは令和4年度よりも増えているんでしょうか

(事務局) 令和4年度と比較すると増えています。

(宮永委員) 障害のある小学生のお子さんのお母様から感謝の言葉等をいただいていますので紹介させていただきます。キッズクラブをご利用の方からは人数が多い中、職員が1名ついていてくれるので安心できる、放課後デイサービス利用までの短い間でも子どもを預かってもらえて助かっているといった声をもらえたり、障害のある児童が多く、職員をつけられないといった声もありました。

ニーズ調査の結果も踏まえて、研修等で障害理解等を深めていくような対応をお願いします。

(三浦委員) 放課後キッズクラブの開所時間が8時30分の時は非常に不便だという声をもらっていたが、8時になってから、とても助かったという声をもらえました。

(鈴木委員) 人材育成研修で講師をさせていただきました。終了後の受講者の感想などから非常に熱心に勉強されていることがわかり、子どもたちがけがをした時の対応などについて、正しい知識を身につけようという意欲が感じられました。

また、障害のある子どもへの対応が年々充実してきていて、とてもいい取組だと感じました。

(江口委員) 放課後キッズクラブの開所時間が8時になったことは、とてもいい成果になっている一方で、近くにおいて放課後キッズクラブが大変だったことも感じました。

学校職員の働き方の一環で、授業日数を減らす話も出ており、放課後に関わる方々に更なる負担が増えてしまうことも懸念となっています。

(高杉委員) 高学年になると放課後キッズクラブに来なくなるのは実感しています。放課後キッズクラブに行くより、子ども達同士で公園で遊びたいという声はよく聞いています。

一方で働く親御さんから、受け入れ人数が決まっていて、高学年になると駄目と言われていて、心配だという声も聞いたことがあります。

8時から開所になったことで負担はたしかに増えていますが、これまで8時過ぎに学校に着いた子ども達は炎天下の中待っているしかなく心配だったが、8時に門を開けることができるようになったので、子どもの安全面からは良かったと感じています。

(明石部会長) 資料の6のプレイパーク事業の子どもの感想が非常にリアルに出ていると感じました。

資料7の研修参加率が95%は素晴らしいと感じました。このようなアウトカムを出していただけると助かります。

事務局へ質問ですが、看護師の配置は今年度から既に実施していますか。

(事務局)昨年度から医療的ケア児の受入れを実施する放課後キッズクラブ及び放課後児童クラブに訪問看護等で看護師を派遣しています。一部のクラブでは常勤で雇用しているクラブもあります。今後、医療的ケア児が増えることが想定されるため、保育園とも連携しながら、仕組みを作っていけるように考えていきます。

(池田委員)プレイパークの事業評価の中で、プレイリーダーが集まらない、担い手不足など運営が厳しそうなコメントがありますが、今後の展開について、横浜市の見解を教えてください。

(事務局)プレイリーダーの人材確保は課題で、大変だという話は運営団体からも聞いております。特にプレイリーダー、ボランティアの方含めて考えないといけません、人手不足ということもあり、課題に感じています。

(明石部会長)個人的にはプレイリーダーは学生が一番良いと思っています。ボランティアでは単位として出せませんが、教育支援活動になれば学生に単位を出せる場合もあり、単位が出る仕組みが作れば、上手くいくのではないかと思います。

(事務局)先ほど高杉委員より放課後キッズクラブの定員の関係のお話がありましたが、放課後キッズクラブは、申し込みがあった場合基本的に受入れを行っております。定員はありますが、お申し込みが増えてきた場合、特別教室等をお借りしてスペースを広げるよう対応させていただいておりますので、その部分を補足させていただきます。

資料	資料1 横浜市子ども・子育て会議放課後部会 委員名簿 資料2 横浜市子ども・子育て会議放課後部会 事務局名簿 資料3 横浜市子ども・子育て会議条例 資料4 横浜市子ども・子育て会議運営要綱 資料5 第2期子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について 資料6 第2期横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価(様式1) 資料7 第2期横浜市子ども・子育て支援事業計画の統括案
特記事項	—